

令和元年10月1日 信者心の道勉強会

神 示

神の側近 供丸齋命――

人類の仕合せ 幸福を願われ

「教え」を学び 「真理」に生きる

信者の人生を見守っていられる

この真実を忘れず 心に留めて 信者の道を歩むなら

深く「教え」に悟りを得て

「人たる人の心」の姿が見えてくる

なぜ「教え」を学ぶことが必要か

「希望の光」を通すことが いか「人生」に大切か

人類が求める真理の姿が見えてくる

神魂の時代を迎え 人類は

「教え」を通し 「人生の真理」が悟れるほどに

「運命」に重なる人生が歩める

互いの運命を重ね 補い 支え合う社会を築くために

人は皆 「教え」に悟りを得て

「実体」を修正する努力が必要

この悟りが 「教え」に生きる心を強く引き出す

「道」を守りて「光」が通る――

悔いなき「人生」を歩み抜く 悟りの心が ここにある

代神の願いを心に感じるほどに 人間は

社会を導く人となつてゆく

↓す。道を守れば、光が通ります。

なぜ教えを学ぶことが必要と神が繰り返す。道を守れば、光が通ります。

返し説かれるのか、それは教えに生きるところに希望の光が通るからです。なぜ希望の光を通すことが人生に大切かといえ、運命に重なる心の動きができるようになるからです。教えを身に付け、実践すれば、実体が修正できて、運命が導

く人生が歩めるのです。

今は、道を守れば光が通る神魂の時代です。神の教えが身に付くほど、分、器に合った運命に重なる毎日が送れます。

一人一人が、神から与えられた世に役立つ力を、存分に發揮できる人生を歩めるのです。そのためにも、互いの運命を重ね、また補い、支え合う社会とできるよ

大山祇命は、供丸齋先生を使者として神示教会を設立され、この世に救世の門戸を開かれました。そして、真実の神の実在と、神、仏、人の道の教えを示し、大山祇命の化身である供丸姫先生のご正体が明かされるように導いて、神から与えられた全ての任を果たされました。今は、代神供丸齋命として、一人一人をお守りくださっています。

代神とは、大山祇命の側近の神。だからこそ、神魂と共に、人類の仕合せ、幸福を切に願われています。仕合せ、幸福になるには、希望の光を通すことが必要です。希望の光を通すには、真理に生きなくてはなりません。そのための生き方の手本が、供丸齋先生です。

今も代神が一人一人の仕合せ、幸福を願い、お守りくださっていることを忘れず、信者の道を歩むことです。信者の道とは、教えを学び、祈願で実践に移し、愛深い心の自分を目指すのです。教えに生きれば、人としてあるべき心の真理が見えてきます。道を守れる人になれま

うに、教えを身に付け、実体を修正する努力が必要です。

これを欠いては、調和が崩れ、自分自身の良さが生かせません。まずは家庭で教えに生きて、調和を図ることです。それができると、多くの人の先頭に立ち、運命が導く生き方ができるようになります。

神の教えに生きること、運命の力が引き出されます。実体も修正できます。その悟りが人生を守ることとなります。道を守れば光が通る、その認識で生きるところに、人生を悔いなく歩み抜くことができるのです。

代神は、信者一人一人が正しい道を歩むことを、心から願われています。代神の願いを感じるほど、その人は社会を導く存在になっていくと、神は言い切られました。社会を導くとは、努力でどうかしようとして、自分の考えを押し付けたりするではありません。持って生まれた運命で、それを求める人のために生きることなのです。